

1.適正配置の考え方

子どもたちの未来社会を切り拓くための

資質・能力 **『生きる力』** を育てる

■ 主体的な学び

- 子どもが学びに興味や関心を持って向かう学びの場

■ 対話的な学び

- 他者の考えと交流しながら自分の考えを広げる学びの場

■ 深い学び

- 各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学びの場

**子どもの年齢に応じた教育・環境を
すべての子どもたちに公平に提供する**

2.児童に与える影響

学級数や教員数が少ないことによる課題や制約が児童生徒に与える影響

※参考：公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成27年1月27日文部科学省）

- ① 協働的な学びの実現が困難となる
- ② 多様な物の見方や考え方，表現の仕方に触れることが難しい
- ③ 多様な活躍の機会がなく，多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい
- ④ 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい などが挙げられます。

学校を統合して学校規模を適正化すると・・・

子どもの年齢に応じた教育が可能となり，教育効果が高まる

- ◆ 集団としての教育活動の充実
- ◆ 多様な価値観に触れる機会の増加
- ◆ 多面的な評価と指導
- ◆ 教職員の指導力が強化

子どもたちの『生きる力』
資質・能力がさらに育まれる

- 主体的に学習に取り組む
- 規範意識や思いやりの心が高まる
- 個性や創造力が伸びる
- 思考力・判断力・表現力が高まる

3. 統合に関する不安への対応

統合後の児童の心のケア いじめ・不登校対策

- ◆ 児童の心のケアをしっかりと対応できるのか？
- ◆ いじめられたり，不登校になってしまうのではないかと？
- ◆ スクールカウンセラーは配置されるのか？

児童が安心して通学できるよう いじめや不登校の未然防止

統合の準備として，児童の事前交流を深めます。統合後の学校には両校の教員を配置し，スクールカウンセラー等の支援体制を構築します。また，悩みや不安に関する継続的調査を行い，未然防止を図るほか，教育委員会と学校とが連携して，状況に応じた個別対応を行います。

東小学校がなくなることは とても寂しく感じる

- ◆ 子どもたちの声が聞こえなくなりさみしくなる
- ◆ 子どもたちとの交流がなくなってしまう
- ◆ 東地区が過疎になってしまう

学校跡地の活用方法は 地域の意見を伺いながら検討

学校跡地の活用方法については，地域のみなさんの意見を伺いながら検討します。

- 幼稚園として活用
- 市民活動拠点としての活用 など

4. 統合準備の状況及び今後の予定

■ スクールバスの原案策定

- 東小学校の児童は全員スクールバスに乗車
- スクールバスは無償運行
- 添乗員を配置
- 乗車基準：徒歩通学2.5km以上

■ 体操服のアンケート調査実施

- 体操服サンプルの保護者アンケート実施
- 遅くとも年内には新しい体操服を決定します

■ 統合校の学校名募集開始

- 8月15日から9月16日の期間で新しい学校の名称を募集